

事業コード	H16-建-継-2		区 分	国庫補助・県単独
事業名	街路事業		部 局 名	建設交通部
事業種別	二種改築(現道拡幅)		課 室 班 名	都市計画課 街路班 (tel) 2444
路線名等	花輪通線		担当課長名	本田 武志
箇所名	鹿角市花輪		担当者名	技師 目黒 寛
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	1	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	目標コード	3	施策目標名	都市計画道路整備率

1. 事業の概要

事業期間	H11~H17(7年)	総事業費	34億円	国庫補助率	0.55		
事業規模	延長L=336m 幅員(構成)W=16.0m(3.5-1.5-3.0-3.0-1.5-3.5)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、鹿角市の中心既成市街地を縦断し、十和田八幡平国立公園に通ずる都市内交通幹線として重要な機能を果たしている。しかし、現況は幅員6.5mと狭小のうえ見通しが悪く、しかも市街地一番の繁華街を通過するため、交通量の増大とともに交通の円滑な流れと歩行者の安全が著しく妨げられている状況にある。</p> <p>このため、沿道環境の整備を推進し、交通混雑の緩和と歩行者の安全の確保を図るものである。</p>						
事業目的	<p>冬期の歩行者安全確保(スノートピア道路事業)</p> <p>中心市街地の活性化</p> <p>交通混雑の緩和</p> <p>個性豊かなまちづくりの支援</p>						
事業費内訳 事業内容	(単位:千円)						
		全 体	H14年度迄	H15年度	H16年度	H17年度以降	
事業費内訳	事業費	3,353,000	2,833,000	300,000	180,000	40,000	
	経費内訳	工事費	249,792		131,292	83,500	35,000
		用補費	2,754,708	2,551,000	131,208	72,500	
		その他	348,500	282,000	37,500	24,000	3,000
	財源内訳	国庫補助		1,416,500	165,000	99,000	22,000
		県債		1,196,000	111,000	66,000	14,000
その他			169,980	18,000	10,800	2,400	
一般財源		50,520	6,000	4,200	1,600		
事業内容		詳細設計 用地測量 用地補償	用地補償 街築工	用地補償 街築工	街築工		
事業推進上の課題							
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「快適で安全な生活を支える環境づくり」に位置づけられる事業 平成16年4月の鹿角都市計画区域マスタープランにおいておおむね10年以内に整備を予定する主要な施設に位置づけられている。						
関連プロジェクト等							
事業を取り巻く情勢の変化	当該区間北側の238mは平成12年度までに完成しており、歩道の連続性を確保し、買い物客等の安全確保のためにも早急な整備が必要である。						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	都市計画道路整備率		データ等の出典	都市計画年報		
	指標の種類	成果指標 (業績指標)		把握の時期	翌年度年 7月		
	指標式	= 整備済延長 / 都市計画決定延長					
	目標値 a	49					
	実績値 b	48.0					
達成率 b/a	98%						

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	並行して走る国道282号が代替路線であるが、本路線の整備とあわせ建物の更新等沿道のまちづくりを進め中心市街地の活性化を支援する事業であることから、未整備による影響はまちづくりの観点からも大きい。 沿道には商店が建ち並ぶため買い物客等の歩行者が多い箇所であるが、現況道路が狭隘で歩道もないため、歩行者が非常に危険な状況に置かれている。特に冬期降雪時には除雪された雪が積み上げられるためより歩行者空間の確保ができず、危険である。	30点
緊 急 性	「あきた21総合計画」における快適で安全な生活を支える環境づくりに資する事業であるほか、「鹿角都市計画区域マスタープラン」の中でもおおむね10年以内に整備すべき路線として位置づけられている。 商店街の買い物客等歩行者が危険な状況に置かれている。	12点
有 効 性	鹿角市のメインストリートを整備するものであり、市街地活性化を支援する意味からも有効性高い。 バリアフリー対応の歩道とするのはもちろん、スノーピア道路事業区域内であることから、歩道に融雪機能を設けるため、冬期間でも歩行者の安全性・快適性が確保される。	10点
効 率 性	再生砕石、再生安定処理路盤を使用することでコストの縮減を図っている。	16点
熟 度	事業は順調に進捗しており、当初計画を上回る93%の進捗率であり、平成17年度の完成が見込める。	15点
判 定	ランク（ ○ ） 中心市街地における安全で快適な歩行者空間の整備に資する事業であり、北東北の拠点となる地区の事業であることから必要性が高い。また事業進捗率が高く、来年度の完成が見込めることから継続して事業を進めるべきである。	83点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

事業認可期間内に完成するよう事業を推進する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16 - 建 - 継 - 2) 箇所名 (花輪通線)

適用事業名 (街路事業)
(通常事業・交付金事業・地方特定事業・県単独事業)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性 (35点)	交通状況の変化 (バイパス・新設路線については、競合する路線を現況道路とみなす)				
	現況道路の交通量変動 (自動車・歩行者・自転車交通量)	増加している (5%以上)	15	12	
		現状維持 (±5%未満)	12		
		5%以上10%未満の減少	10		
		10%以上20%未満の減少	8		
		20%以上の減少	5		
	今後の進捗の見込み				
	事業執行上の課題の有無	課題もなく順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はあるが事業の進捗に大きな影響はない	8		
		将来的な課題はあるが当面の進捗に影響はない	5		
課題解決の見込みがなく、停滞している		0			
事業中止又は休止による影響					
事業を中止・休止した場合の成果に対する影響	代替手段がなく、影響が大きい	10	8		
	代替手段はあるが、影響が大きい	8			
	代替手段があり、影響が小さい	3			
計			35	30	
緊急性 (15点)	関連事業の有無				
	各種プロジェクト支援 (県の主要プロジェクト・地域振興プロジェクト)	有り	1	1	
		なし	0		
	大規模イベント支援 (国体・インターハイ・万博など)	有り	1	1	
		なし	0		
	新規整備の公共公益施設アクセス (市町村役場・病院・学校・公民館など)	有り	1	0	
		なし	0		
	他公共事業関連 (街路事業以外の事業支援)	有り	1	0	
		なし	0		
	住宅宅地開発 (300戸以上又は16ha以上)の連絡道路	有り	1	0	
なし		0			
事業を取り巻く周辺状況(需要)の変化					
現況に対する将来交通量	増加する(5%以上)	10	10		
	変化なし (±5%未満)	8			
	5%以上10%未満の減少	7			
	10%以上20%未満の減少	5			
	20%以上の減少	3			
計			15	12	
有効性 (15点)	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度				
	高速ICアクセス 港湾・空港アクセス 新幹線駅又は特急停車駅等 ⁽¹⁾ へのアクセス 特急停車駅又は平均乗降客2000人/日以上の駅	該当項目2以上	5	0	
		該当項目1	3		
		該当項目0	0		
	主要な観光地へのアクセス 駅前広場の造成 広域道路整備計画				
	市街地の活性化とまちづくりへの貢献度				
	DID区域内の事業 市街地再開発・区画整理等との連携 電線類地中化計画 景観や中心市街地の特色あるまちづくりに資する事業 バリアフリー 周辺景観との調和 道路緑化の推進 3次医療施設・2次医療施設へのアクセス	該当項目2以上	5	5	
		該当項目1	4		
該当項目0		2			
		0			
県施策目標への貢献度					
都市計画道路整備率の向上	平成17年度末までに供用予定	5	5	平成17年度 あきた21総合計画中間年	
	平成22年度末までに供用予定	4		平成22年度 あきた21総合計画目標年	
	平成23年度末以降供用予定	3			
計			15	10	

評価種別 新規箇所 継続箇所 事業コード (H16 - 建 - 継 - 2) 箇所名 (花輪通線)

適用事業名 (街路事業) (通常事業・交付金事業・地方特定事業・県単独事業)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
効率性 (20点)	当初計画と比べた事業費の増減	都市計画事業認可時の全体事業費との増減	減少している	10	10	全体事業費の増減率	
			10%未満の増加	8		都市計画法第59条又は第63条による	
			10%以上30%未満の増加	7			
			30%以上50%未満の増加	3			
			50%以上の増加	0			
	費用便益比						
			2.0以上	5	3		
			1.5以上2.0未満	4			
			1.0以上1.5未満	3			
	コスト縮減・リサイクル推進貢献度						
廃棄物の発生抑制、再資源化及び適正処理 リサイクル製品、再生骨材等の使用 新工法・新技術の採用 その他(具体的事例)		該当項目2以上	5	3			
		該当項目1	3				
		該当項目0	0				
計			20	16			
熟度 (15点)	都市計画事業認可に対する事業の進捗状況						
	事業認可書の予算計画に対する執行状況		計画以上に進捗している	10	10		
			計画に対して80%以上100%未満	8			
			計画に対して60%以上80%未満	6			
			計画に対して50%以上60%未満	4			
			計画に対して50%未満	2			
	地域の協体制						
	事業推進のための各種協議会等が設置されている 地域住民の取り組みが積極的である 市町村自ら積極的に用地交渉など事業の推進に関与している 買い取り請求が複数ある 裁決申請(予定を含む)物件がない		該当項目3以上	5	5	同盟会、協議会、連絡会議等	
			該当項目2	4		各種説明会等の出席率が高い	
			該当項目1	3			
該当項目0			0	都市計画法第68条による			
計			15	15			
合計			100	83			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	83	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		